

障害福祉のしごと座談会

MEMBER

座談会参加メンバー

三上 紗稀さん

法人名 : 社会福祉法人さくら草

事業所名 : デイセンターさくら草

種別 : 生活介護

在職年数 : 7年

(産休・
育休含む)



茂木 明子さん

法人名 : 社会福祉法人のびろ会

事業所名 : のびろ作業所

種別 : 就労継続支援B型

在職年数 : 5年7か月

前職 : 事務



島野 真さん

法人名 : 社会福祉法人久美愛園

事業所名 : 障害者支援施設 互助の里

種別 : 入所・生活介護・短期入所

在職年数 : 3年



福田 正一さん

法人名 : 株式会社チャイルドサポート神尾

事業所名 : こぼんはうすさくら

さいたま土呂教室

種別 : 児童発達支援

放課後等

デイサービス

在職年数 : 2年9か月



鹿野 史雅さん

法人名 : 社会福祉法人鴻沼福祉会

事業所名 : つばさ共同作業所

種別 : 生活介護・就労継続支援B型

在職年数 : 1年5か月

前職 : 高齢者向け

介護・
福祉施設



福祉に興味があるのなら、障害福祉分野を是非見てほしい！！

利用者と一緒に成長していける！！

熱い思いを持つさいたま市内の障害者施設の職員に集まってもらい、「仕事のやりがい」や「仕事の支えになっていること」などについて語り合ってもらいました。



TOPICS

- 1 障害福祉の仕事を始めたいきっかけ 3
- 2 働き始めた時の障害福祉の仕事のイメージと今 5
- 3 障害福祉の仕事のやりがい 7
- 4 職場の雰囲気について 9
- 5 ワークライフバランスについて 11
- 6 給与について 13
- 7 先輩や上司から言われて印象に残っている言葉 14
- 8 仕事をしていくうえで支えになっていること 15
- ★ 障害福祉分野で働くことを考える人へのメッセージ 17



1

障害福祉の仕事を始めたいきっかけ

茂木さん：前職の時からバーンゴルフ※をやっていて、障害者とは関わりを持っていたんですね。そこで一緒にやっていた方から、「事務職よりも障害者施設の方が合っている」と何回も言われまして、思い切って仕事を変えてみようと思ったのがきっかけです。

※ヨーロッパ生まれのパターゴルフとビリヤードを組み合わせたようなスポーツ。誰でも一緒に楽しむことが出来る。

福田さん：私は小学校5年生から中学校1年生まで対象の宿泊学習のインストラクターをやっていて、そこで小学生の純粋さに惹かれ、小学生に関わる仕事をしたいなと思っていたことが始めです。その頃はまだ障害福祉に結び付いていませんでした。同時にアルバイトをしていたファストフード店でやっていた、ハンバーガー作り体験に参加しに来たのが今の会社でした。そこで一緒にハンバーガーを作り、美味しそうに食べている姿を見て、「この子たちと一緒にいたいな、じゃあ入ろう！」とその日のうちに会社のオーナーに話をして入社に至りました。

みなさん：すごいですね！

福田さん：直感だったんですよ。最初にオーナーと話した時は、その子たちがどんな子なのか全く知らない状態で、「この会社で働きたいです」と言いました。面接はファストフード店の端の方の席でやり、施設を後日見学して、仕事内容を確認した上で、再度「この会社で働きたいです」と言って入りました。だから障害福祉って何だろうなというところから始まりました。「見て、感じて、よしやろう！」という感じでした。

三上さん：私の町は年に1回福祉運動会のようなことをやっていて、小学生の時に参加したことがきっかけでした。そこでは、障害の方がいると何となく離れていく人が私の周りに多かったんですね。私はスッと入って行けたので、自分が関わったらもっと変わるかなという思いが小学生の頃からありました。大学を決める時に運動も好きだったので、福祉と運動が合体している分野がある大学に行こうと決めま

した。実習で施設に行くと楽しさをすごく感じて、どんだのめり込み、今に至ります。楽しくやれています。

鹿野さん：私がこの分野に行こうと思ったのが転職活動をしている時です。もともと高齢介護や福祉関係の営業もしていたんですが、残業とか夜勤が多くて生活が不規則になってしまったこと、あと利益を求められるのでちょっと疲れたなと思っていました。大学でやってきたことを振り返ったときに、知的障害の子どもたちと触れ合うサークルで活動していたので 次は介護分野ではなく障害者の分野にしてみたいなと思って転職活動したって感じですね。

福田さんの施設の様子



▲体操



▼はじめの会



児童発達支援：障害のある児童に、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練などの支援を行います。

放課後等デイサービス：授業の終了後又は休業日に支援が必要な障害のある児童に、生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進などの支援を行います。

2

働き始めた時の障害福祉の仕事のイメージと今

実際に働いてみて、当初抱いていたイメージからどのような変化がありましたか？

茂木さん: こちらの考えや思いが伝わらないのかなというイメージを持っていました。今はちょっとした変化や成長した喜びの方がとても大きいので、ただ大変というだけではなくなりました。

福田さん: 働き始めたときは障害福祉の仕事を知ったときだったので、私が言ったことを理解してくれているのかなと思う部分があり、うまくいかなくてとても大変でした。今は何でだろう？と考える時間が出来たので、とても充実した時間だなと思います。また、子どもが好きなだけでなく考えて仕事をする事で自分が成長できる仕事だと思います。研修の機会もとても多いので、自分もステップアップできる仕事のイメージに変わりました。

三上さん: 私も、大変でなかなか働く人がいないというイメージでした。車椅子の方を抱っこして移動する回数が多いので、身体的には結構大変かなとは思いますが、みんなと過ごす日常が楽しいというのが勝っています。やっぱり障害者と関わるきっかけがあればイメージも変わると思います。

島野さん: 私は最初のイメージはあまりなくて、働き始めて色んなイメージが後から付いてきました。利用者さんと生活を共にして、ひとりひとりの個性や表情等に一瞬一瞬関われる、見れるというのがとてもいい仕事だと思っています。

鹿野さん: 私はパンを作って駅とか施設に売りに歩いているイメージが強かったです。実際に働いてみると、私が出来ないような細かい仕事ができる利用者の方がいたり、分からなかったときに教えてくれる利用者がいたりするので、利用者の方が主体的に動いているのを感じましたね。

大変だと思うことや難しいと感じていることを教えてください。

福田さん: 子どもたちは自分のこうしたいというこだわりが強くイライラしたりすること

があるので、私たちがそのこだわりをどうやって小さくしていくか、こだわりを生かした何かを提供してあげたりとかを考えるのが大変だなあと思います。あと、私たちの思いを伝えたり、相手の思いをくみ取ってあげるのが難しいなと思います。

島野さん：言葉を使えない利用者さんやこだわりを持っている利用者さん、昨日と今日で様子が違う利用者さんなどがいらっしゃるの、一つの行動を見て、その理由を考えるのは大変で難しいなと思いますが、ひとりで考え込むのではなく、周りの職員と話し合って支援方法を練り、大変なことを克服しています。

鹿野さん：自分の気持ちを伝えられない人が多くて、その人の本当に望んでいることを知るには、何気ない発言や行動の内容だけでなく、生活歴、家族構成などのバックボーンも考えないといけないので、それを学んでいくのが難しいかなと思いますね。



島野さんの施設の様子



▲音楽祭



▲野菜の収穫



▲支援の様子

入 所 ：施設に入所する人に生活の支援をします。

生活介護：障害者に生活の支援をするとともに、創作的活動や生産活動の機会を提供します。

短期入所：自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含めて施設で生活の支援をします。

3

障害福祉の仕事のやりがい

仕事をしていて嬉しかったこと、やりがいを感じたエピソードを教えてください。

茂木さん: 私の法人はグループホームがありまして、利用者の女の子がものすごくいたずらっ子で、グループホームのトイレトペーパーを取ったりとか、洗剤を使って泡だらけにしたりして、めちゃくちゃにしてしまうんですよ。当直を週に1回するんですが、夜中にその子が動いたりするので、寝られないんですね。洗剤で泡だらけにしてしまので洗濯をやりたいのかな、じゃあ洗濯をやらせてみようとなりました、私が最低限の管理をするので一緒にやらせてほしいと所長にお願いしました。洗剤を入れる時だけその子に洗剤を渡し、干すのは彼女に自由にやらせてもらうというのをやってみたら満足したようで、ある日突然いたずらをしなくなりました。もう1年以上いたずらを全くしていません。それが最近の中ではすごく嬉しかったことです。

福田さん: 嬉しかったことは、いたずらが多い子が最近すごく落ち着いている様子があったことです。あと、身だしなみの目標があるんですけど、自分から身だしなみをチェックするようになったり、手洗いが終わった後に「洋服乱れてない？」と聞いてくれたりすると、ちゃんと自分の事を見返せるようになってきたというのを感じて嬉しいです。卒業するときに、子どもから「僕はここですごく楽しかったし頑張った」や、泣いて「ありがとうございます」と言われるのもとても嬉しかったです。事業所に妹がいる子は、妹のことを「よろしくお願いします」と言ってくれたり等もありました。子供の成長を感じる瞬間がたくさんあるのがとてもやりがいを感じる部分です。

三上さん: 毎日笑顔をみんなから貰っていて、自分でなかなか表現できなかつたり、表現しているつもりでも言葉が出せない方が多いので、「何だろう、何だろう」と探るのをやりがいと感じています。いろんなことを「これかな、これかな」と提示していくと、すごい力が入っている子もピタって止まる瞬間があったりします。利用者さんが「分かってよー」と表現してくれるのも、分かってくれるから出してくれているのかなと思う部分もあるので、やりがいを感じます。

島野さん：年に3～4回行事がありまして、私のいる法人の各施設の利用者さんが集まって大きな行事をやるんですけれども、その時に利用者さんの笑顔をみられるのはすごく嬉しかったことかなと思います。また、私が利用者さんに関わる時の反応が一瞬一瞬やりがいに感じています。

鹿野さん：私がやりがいをを感じるのは、小さな変化とか成長が見られたときです。例えば、トラックから20キロの玉ねぎを下ろしたりする結構力のいる仕事があるんですね。それをただ見ただけだった利用者さんが、声を掛けたら台車を押すようになって、何も言わなくても自分から動くようになったことがありました。あとは、トラックに乗るのは職員が多いんですけど、職員がどうしても下に降りなくてはいけないときに、その様子を見ていた、いつも手伝わない人が、トラックに乗って無言で玉ねぎを下ろしていることがありました。そういった変化や成長を見られた時にやりがいを感じますね。



鹿野さんの施設の様子

◀玉ねぎを運んでいる様子



◀トラックから玉ねぎを降ろしている様子

就労継続支援B型：一般企業等での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。

4

職場の雰囲気について

職場の雰囲気はいかがですか？

茂木さん：同僚の家族と一緒にご飯を食べたりします。職場の人と仲が良く、悩みなども相談しやすいです。

福田さん：私の職場では、利用している子どもの話をよくします。どうしたらよい支援が出来るかを話している時間が多く、とてもいいなと思っています。その中でも、笑いが起きるのでとても居心地が良いです。

三上さん：仲が良くアットホームです。長年、長い時間一緒にいるので何でも言えますね。

島野さん：今いる施設は20代、30代がほとんどで年代が若いので話とかも合います。上司や先輩も毎日気を使ってくださり、仕事でも「体調大丈夫？」など声をかけてくださるので、楽しくできています。

鹿野さん：今の職場は職歴が長い人も多いんですけど、壁がないのでサッカーなどスポーツの話をよくします。浦和レッズのファンが多いので、自分の応援しているチームが浦和レッズに負けた時に「ごめんね」と言われたりとか、ふざけた話もしたりして、とてもいい関係です。

ズバリ！！ 事業所の好きなところはどんなところですか？

鹿野さん：職員も利用者もみんな楽しいところです。

島野さん：私も楽しいところです。職員も仲が良く、利用者さんとも普段から話したりしています。あと、今はコロナで利用者さんも外出出来ないなので、行事とかを施設の中でいかに楽しくできるかを頑張っています。私は音楽が好きなので、利用者さんと一緒に楽器を使って楽しんだりしています。コロナになる前はテーマパークに利用者さんと一緒に行ったりしていました。そういう部分が楽しくて好きです。

福田さん：やっぱり一日楽しく過ごせるところが好きです。尚且つ、子どもの成長がよく見られるし、その成長に対して他の先生と共有できるところが好きです。

茂木さん：私は、自由が多いところが素晴らしいところだなと思います。あれをやってはいけない、これをやってはいけないと利用者さんに対していろいろ制限などを設けているところもあると思うのですが、うちは全くそういうところがなく、利用者さんが職員をニックネームで呼んだり、お菓子を交換したりしています。



▲電線接続金具の解体再生作業



▲配膳の様子

茂木さんの施設の様子



▲作業の様子

就労継続支援 B 型：一般企業等での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。

短期入所：自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含めて施設で生活の支援をします。

5

ワークライフバランスについて

残業はありますか？

鹿野さん：勤務時間は 8:30~17:00 ですが、記録を書いて、打合せをして、だいたい 18:30 までには帰ろうと思っています。

茂木さん：うちも 18:00 以降は早く帰るよう言われます。

島野さん：行事前で忙しくなると製作するのに残業をすることもあります。そんなに残業は多くないと思います。

三上さん：私は保育園のお迎えがあるので、終わったら帰ります。いかに残業をしないで事務作業をするかが課題です。働き方改革を今起こしています。

福田さん：私の事業所では、残らないで帰るように言われています。普段の平日だと、勤務時間が 18:00 までなので、18:15 くらいには玄関を閉めるように努力しています。みんなで協力して、全員で帰ろうという感じですね。自分の時間も確保できるのがありがたいですね。

シフト勤務や土日勤務についてはどう感じていますか？

島野さん：うちは希望休が取りやすいです。土日で希望休を出して通ることもありますし。あとは土日働くと平日休みじゃないですか。そうすると例えば、3日働いて休んで2日働いて休んでとなり、連続勤務が無くなるので体的にも楽です。

鹿野さん：土日は作業を終わらせたらすぐ帰れるので、私は土日勤務の方が良いです。定時は決まっていますが、有休を1時間単位で使えるので、有休を使って帰ります。みんなが早く帰りたいので、平日だったら夕方までかかるような作業も利用者さんも頑張って午前中に終わらせる、というような感じです。むしろ土日に働きたいです。

産休育休についてはいかがですか？

三上さん: 私は子供が2人いるので2回取りました。保育園がすんなり決まったので1年ずつくらいです。温かい職場でみんな応援してくれたので、とてもやり易かったですね。今も子育てしながら働くにはここしかないかなと思うくらい、みんなが温かく見守ってくれています。復職もしやすかったです。
また、短時間勤務している方が多くて、お子さんがいる方はほとんど取っていると思います。生活があって、仕事があるというのをみんな分かっているの、それが当たり前という雰囲気です。



▲施設の職員



▲スイカ割り



三上さんの施設の様子

生活介護：障害者に生活の支援をするとともに、創作的活動や生産活動の機会を提供します。

6

給与について

仕事を始める前のイメージと比べて、給与はいかがですか？

茂木さん：こんなものなのかなという感じ。びっくりするほど少ないというわけではなかったです。

福田さん：周りの人と比べると少ないのかなと感じるときはありましたけど、自分の後々の成長で積み重なっていけばいいなと思いました。ここがいいと決めて入ったので、入るときにあまり給料のことは考えてなかったです。

鹿野さん：私は逆にこんなもらえるんだと思いました。転職した際に、前職の高齢福祉で働いていたことが加味されて、思ったよりスタートラインの給料が高かったです。加えて、ボーナスを含めるとこんなにももらえるのかという感じでした。転職を何回かしていて、給料は大事だと思っていたので良かったです。



▲作業の様子（茂木さんの施設）

7

先輩や上司から言われて印象に残っている言葉

福田さん：私が上司によく言われているのは、「チームとして何か考えて、考えたことをやってみて、振り返りをして次につなげる」ということですね。しっかりと計画をして、それをやってみて、振り返る。そのやってみてをしっかりとやろうよというのがすごく印象的でした。あとは、「どうやったら子どもたちが成長できるかを考えていけば、自ずと自分がどうしたらよいのかが分かってくる」というのをよく言われます。

島野さん：「利用者さんの行動には全て理由があって、その理由を考えながら支援をするのがすごく大切」と先輩から言われたことがあるので、これを常に意識して支援をしています。

鹿野さん：野菜を袋詰めする作業の数が多い時には、どうしても早く袋に詰めて早く加工するというのがメインになってしまい、ある日、利用者さんの居場所を把握できていなかったんですね。その時に「作業が仕事じゃなくて支援が仕事なんだからしっかりしろ！」と言われました。いかに利用者さんが仕事に参加できるかということも補っていくのが支援員なんだなと感じました。



▲会議の様子（福田さんの施設）

8

仕事をしていくうえで支えになっていること

茂木さん：所長を含めて6名しか職員がいない少人数の施設なので、誰かが大変な時は、一致団結して乗り切っていこうという環境がとても支えになっています。あとは、クッキーを作っている施設があって、月1で沢山買っているんですね。そのときにその職員の方と情報交換したり、報告し合っ、どこも一緒だなと思いがら、また頑張ろうという気持ちになります。

福田さん：子どもの笑顔ですね。子どもが来て、楽しいと言って帰ってくれるだけで十分なのかなと思います。あと、その楽しいを維持するために、児童発達管理責任者になりたいという目標を持っていることも支えになっています。

三上さん：私は子育てしやすい職場環境なのがとても支えになっています。利用者さんの親御さん達も一緒に私の子どもの成長を見てくれたりする部分もあって。「ああ、こういううちの家と一緒に」みたいに子育てと福祉で似ている部分が出てくるので、リンクしてくるのが楽しいですね。それが結構支えかなと思います。

島野さん：利用者さんの笑顔とかが支えになっていますね。最近だと感謝の言葉とか、「また明日来ますか？」とかの利用者さんからの一言で頑張ろうと思えます。あと、月に1度職員会議で気になった支援を話す場があるので、いろんな先輩や後輩の支援を話し合ったり、悩みを相談できる環境があるのがとても支えになっていると思います。

鹿野さん：私は職場環境が良いところが働く上での支えになっています。以前働いていた高齢者施設では、3年働けば大ベテランというような感じだったんですけど、今働いているところは、私の次に経験年数が短い人が3年で、15年以上の人が当たり前のようにいるんですよ。分からないところを普通に教えてくれたり、自分の考えを伝えると、そういう考えもあるねと聞き入れてくれます。相談にも乗ってくれるし、連携も取れて、仕事がしやすいのが働く上での支えになっていますね。

他の方の職場でも在職年数が長い方が多いのでしょうか？

茂木さん：同じです。うちも先輩が20年という人たちばかりで、私が一番下です。

三上さん：長い人は長いです。新しい人が入っても、みんなフォロー体制がすごくて、一緒にやっっていこうよという雰囲気です。



障害福祉分野で働くことを考える人へのメッセージ



茂木さん

同じ日が一日たりともない。人間と人間のぶつかり合いなので、毎日新鮮に仕事に向き合えるというところが魅力的だなと思っています。また、人に興味と好奇心を持っている方であればすごくやりがいのある仕事だと思うので、ぜひチャレンジしていただけたらと思います。

間近で人の成長を感じたり、自分も成長したいという人はこの仕事に向いているんじゃないかと思っています、そこが魅力だなと感じています。初めての人は私みたいに、まずは目で見て感じて、仕事を決めていただけると嬉しいです。



福田さん



三上さん

本当に心がきれいになります。お互いの生活をとても大切にしようと思うし、人と人のつながりは大事だなと思います。一度でいいから見て欲しいです。

人と人が接する仕事で、日々様子や表情が常に変わるので、新しい発見が出来ますし、利用者さんから元気をもらえるので、それが魅力だと感じます。自分の職場は若い人が多いので、若い人が活躍して障害福祉の現場を盛り上げていきたいと思っています。



島野さん



鹿野さん

一緒にいろんな仕事をやって、一緒に余暇を楽しむ。旅行に一緒に行ったりなど一緒に楽しみ、同じ仕事をする仲間であって、お互いを助け合って一緒に成長していけるというのがとても魅力的です。福祉に興味があるのであれば、一度障害福祉で働いてみてはどうですか？後悔はさせません！

